

3~4か月児  
健診用

# 防ぎましょう! 子どもの事故

子どもの事故を防ぐには  
周囲の環境をより安全に整えることが大切です。  
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

指導：平成22年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)  
「乳幼児の事故を予防するための戦略研究」に関するフィジビリティ・スタディ  
(研究代表者 衛藤隆)  
制作：株式会社 放送映画製作所



## 1 車に乗せるときはチャイルドシートを必ず装着させましょう。

6歳未満の幼児を乗車させるときは、発育に応じたチャイルドシートを使用することが義務づけられています。首のすわっていない赤ちゃんには、後ろ向き45度に取り付けた「いす型(抱っこ型)」シートが適しています。チャイルドシートは、必ず後部座席に装着しましょう。助手席ではエアバッグが作動した場合に重大な事故につながる恐れがあります。

チャイルドシートを購入するときは、国の定める安全基準に適合しているか、自動車のシート形状に合っているかを確認しましょう。



## 2 入浴中は子どもから目を離さずに、入浴後は浴槽の水を抜き浴室に鍵をかけましょう。

短時間でも赤ちゃんを浴室に置いて外に出ないようにしましょう。浴槽によじ登って溺れる、つかまり立ちをして転倒するなどの事故が起こっています。浴槽のふたは入浴の直前にはずし、入浴中は赤ちゃんから目を離さないようにしましょう。入浴後は浴槽のお湯を抜き、赤ちゃんが一人で浴室に入れないよう浴室のドアの鍵をかけておきましょう。



## 3 ポット、炊飯器、コーヒーメーカー、ライター、アイロン、熱い飲み物・食べ物は子どもの手の届かないところに置きましょう。

ハイハイができるようになった赤ちゃんは、床に置いてあるポットにつかまり立ちをしたり電気コードを引っ張ったりして、ポットをひっくり返したりお湯をこぼしたりします。炊飯器の蒸気の噴き出し口に手や顔を近づけてやけどをすることもあります。ポットや炊飯器、熱い鍋、熱い飲み物、食べ物は赤ちゃんの手の届かないところに置きましょう。また、ポットにはロックをかけ、余分なコードは巻き取っておきましょう。

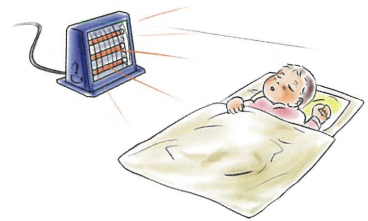


## 4 台所の入口にはガード柵を設置しましょう。

台所はコンロをはじめ炊飯器、ポット、包丁など火傷や切り傷の原因となるものが多く、子どもにとって非常に危険な場所です。構造上、可能なご家庭では必ずガード柵を設置し、子どもを危険から守りましょう。

### 5 暖房器具にはガードを設置しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。赤ちゃんの皮膚はたいへん弱く、ほんの少しの熱でも重いやけどになることがあります。ストーブやヒーターはガードをして使用しましょう。ストーブの上にはやかんなどを置かないようにしましょう。体温より少し高いくらいの温度でも、長時間当たっていると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんにストーブやヒーターの熱が直接当たらないように、また、こたつや電気カーペットには寝かせないようにしましょう。



### 6 ベビーベッドの柵はいつも上げておきましょう。

赤ちゃんの発育は予想以上に速いもの。ベビーベッドの柵を下げたままミルクを作りに行ったり、オムツを取りに行ったり、赤ちゃんから目を離したすきに転落事故は起こっています。赤ちゃんをベビーベッドに寝かせているときは、必ず柵を上げておきましょう。



### 7 ソファなど高いところに寝かせないようにしましょう。

3か月くらいの赤ちゃんは手足をバタつかせて動き、頭のほうへずり上がったりします。5か月を過ぎると、早い子は寝返りが打てるようになります。ソファなど高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離さないようにしましょう。赤ちゃんは動くものだというのを忘れず、ソファなど高いところに赤ちゃんを寝かせないようにしましょう。

### 8 階段の上下にはガード柵を取り付けましょう。

ハイハイが始まると、探索行動が活発になります。ちょっと目を離したすきに階段を上り下りすることがないよう、階段の上下両方に柵を取り付け、閉め忘れのないようにしましょう。また、玄関や縁側など高い段差のある場所には一人で行けないようにしておきましょう。



### 9 ベランダや窓際には踏み台になるものを置かないようにしましょう。

子どもはつかまり立ちができるようになると、高いところに登ろうとします。また、赤ちゃんの頭は大きく重いので、ベランダや窓際に踏み台になるものがあると、よじ登って外へのぞき込んだ拍子に転落する事故が起こります。まだ歩けないから、という考えは禁物です。ベランダや窓際には踏み台になるものを絶対に置かないようにしましょう。



### 10 タバコ、薬品、洗剤、化粧品、電池、硬貨、指輪、はさみ、包丁などは子どもの手の届かないところに保管しましょう。

赤ちゃんは何気なく床やテーブルの上にある硬貨やボタン、指輪などを口に入れます。また、タバコ、電池、薬品、洗剤、化粧品などは誤って口に入れると中毒を起こし危険です。はさみ、包丁なども、触ると手を切ることがあります。これらのものは赤ちゃんの手の届かないところに保管しましょう。

